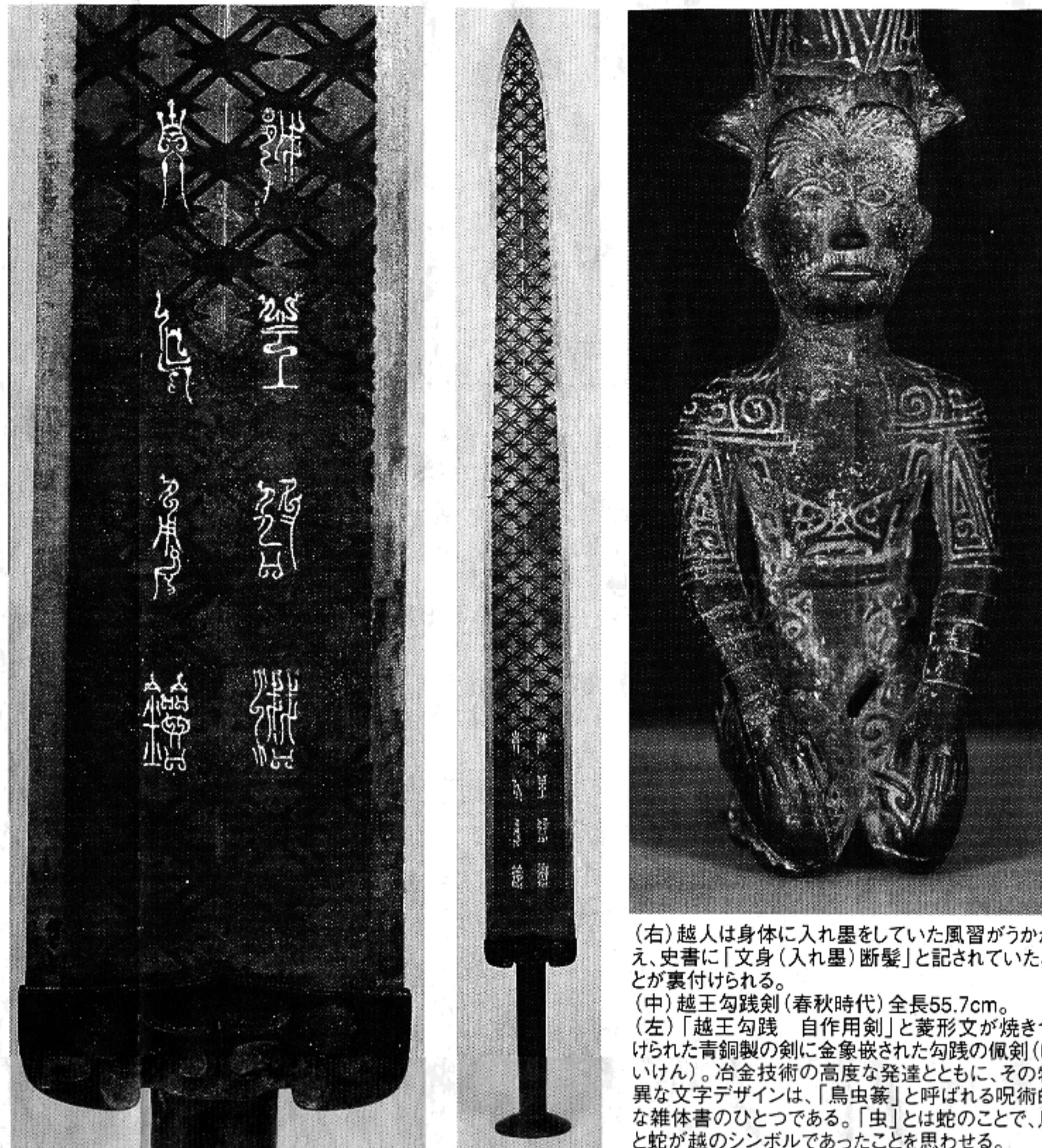


第3号

蒲田風箏

發行所
(株)島久
東京都大田区蒲田1-8-12
電話 03(5703)7575
发行人 小原秀之
印刷所 三盛商事(株)

(右)越人は身体に入れ墨をしていた風習がうかがえ、史書に「文身(入れ墨)断髪」と記されていたことが裏付けられる。

(中)越王勾践剣(春秋時代)全長55.7cm。
(左)「越王勾践 自作用劍」と菱形文が焼きつけられた青銅製の剣に金象嵌された勾践の佩劍(はいけん)。冶金技術の高度な発達とともに、その特異な文字デザインは、「鳥虫篆」と呼ばれる呪術的な雑体書のひとつである。「虫」とは蛇のことで、鳥と蛇が越のシンボルであったことを思わせる。

東天光作

吳越春秋
夫差勾践
会稽雪辱
江山風雲

死力を尽くした 越王勾践・吳王夫差の戦い

臥薪嘗胆の戦い

中国は広い。そしてとてもなく、古い歴史をもつ国だ。

そういう意味では訳の分からぬ国なのだが、日本人としては知らないでは済まされないくらい最も影響を受けてきた

し、それこそ卑弥呼が魏の國へ使いを出すはるか以前から人の交流もあった。つまり、私たちの何分の1かは確実に大陸の血が流れているということだ。

中国のことが歴史的に日本人の視野から消えてしまったのは、やはり江戸時代初めの鎖国政策による。

中国は、じつは五十五の多民族国家で言葉も通じないのは、当たり前のモザイクの国なのだ。

たとえば、テレビドラマで中國語(おそらく北京語)を話しているのに、漢字の字幕スーパーと、こんな具合に「筋縄ではいかないことを頭の隅に入れておく必要がある。

広い中国を区分するのに、大雑把に華北、華中、華南といふような言い方のほかに、「江南」という言い方もある。

「江」とは「長江」、昔は「揚子江」と呼んだ「黄河」と並ぶ大河のことであり、その河口附近の南部一帯を指し、現在の浙江省を中心とする地域のことである。

杭州西湖風景。江南は雨の土地である。

酒で名高い紹興などで、河口にある上海からは三、四百キロほどである。

大逆流で有名な錢塘江も杭州市の近くだ。

春秋時代における

江南の二大勢力、吳と越の国

さて話は古代に跳ぶ。

紀元前の春秋時代(AD. 722 ~ AD. 481)からこの

地域は開発が進み、温暖な気候と豊かな水量に恵まれて新興の国が勃興してきた。長江の下流域に吳の国、その南方の杭州湾沿いには越の国という二大勢力が覇を競うことになる。

そして、春秋時代の末尾を飾る花形「大役者の登場である。それは、「臥薪嘗胆」、「吳越同舟」、「会稽の恥を雪すすぐ」という故事で知られる吳王夫差(ふさ)と越王勾践(こくせん)の死力を尽くした戦いである。言うなれば日本の戦いである。臥薪嘗胆は決着がつかなかつたが)のようなもので、最終的には越王勾践が吳を破り、吳は滅亡する。

呉の都は今の蘇州にあり、越の都は紹興にあった。この両者の戦いは、言わば近親憎悪、骨肉の争いにも似ている。というのは、このあたりの民族というのは、越人と呼ばれるようなタイ語系を話す南方系の人種だったと思われ、中國の文明の中心地である山西省あたりの中原と呼ばれる地域から遠く離れていて、漢民族ではなかった。

人種、民族的に同じであったがゆえに、両雄並び立たずという結果を招いたわけである。

伍子胥は、もともとはるか西方の楚の高官の息子だったが、ある陰謀によって父と兄は死刑させられ、復讐の念を燃やして呉に亡命してきた。閩閭に登用された伍子胥は、やがて楚に攻めることに成功したが、一方強国となつた越王勾践とも対峙することになり、二十

うせん)の死力を尽くした戦いである。臥薪嘗胆は決着がつかなかつたが)のようなもので、最終的には越王勾践が吳を破り、吳は滅亡する。

「臥薪嘗胆」に関する
重要人物たち



中国江南物語 I

【特選】 評当作なし

●佐渡にて(東京・市毛實)

温寒会流

空海淨土

心笑木食

佐渡天晴

総評

佐渡にて(東京・市毛實)

温寒会流

空海淨土

心笑木食

佐渡天晴

総評

佐渡にて(東京・市毛實)

温寒会流

空海淨土

心笑木食

佐渡天晴

総評

佐渡にて(東京・市毛實)

温寒会流

空海淨土

心笑木食

佐渡天晴

総評

佐渡にて(東京・市毛實)

温寒会流

空海淨土

心笑木食

佐渡天晴

総評

佐渡にて(東京・市毛實)

温寒会流

空海淨土

心笑木食

佐渡天晴

総評

佐渡にて(東京・市毛實)

温寒会流

</div



昂くすばる

ここ数年で、東京の老舗のロードショウ館の閉館があつた。新作映画における入らなくなつたというより、老朽化した大型館は、取り壊され、ショッピングセンターなどと合体させたシネコン（シネマコンプレックス）に形を変えてようだ。様変わりしそうな有楽町・日比谷界隈をぶらりと歩いてみた。

*
有楽町駅中央口を出ると、交差点左角、立食いの焼そば屋は看板を降ろしていた。旧モヤシが沢山入ったソース焼きそばで、三十年前は百

五十円だったと、記憶している。ロードショウ館ではないが、その横の道に入つてすぐ左階に「有楽シネマ」（閉館時名はシネ・ラ・セット）があった。「明日に向かって撃て」を観たのがこの映画館だ。ジャーマンペーカリーがかつてあつた道を真直ぐ進むと、今はそのまま「有楽町マリオン」に入つて行く。

まだ「有楽町マリオン」が旧日劇だったころは、この丸い建物と旧朝日新聞ビルの間を通り、数寄屋橋に抜けることができた。旧朝日新聞社ビルも日劇同様立派な建物で、一階には輪

転機が回り、外壁のガラスケースには刷りたての新聞が掲示されていた。道行く人が立ち止まり、新聞を覗きこんでいた姿を思い出す。

その隣のビルに松竹系の丸の内ピカデリー1・2があつた。階段を登つて二階の劇場に上がりつて行くあいだに、気持ちが映画モードに変つていく。長蛇の列に身を投じ「エクソシスト」を観た。

日劇の地下にも映画館が二館、「丸の内東宝」と「日本劇文化」があつた。どちらも思い出深い映画館だが、とくにATG映画、「青春の殺人者」が心に残る（ATG映画とは、製作費が一千円といふ低予算ながら、芸術本位の映画を製作・公開。ほかに類を見ない先駆的な作品を世に送り出し、「一千万円映画」とも呼ばれた）。

日劇文化は、このATG映画館で、閉館後は有楽シネマがそれを引き継いでいた。その有楽町マリオンの向い側、ニュートーキョービル三階の「ニュートーキョービル」が今年一月に閉館した。マスコミの話題にも上がらない小さな映画館であったが、「ウエストサイド物語」のリバイバルやステイプル・

映画館

サンセントラリストリート

ぶらり、東京探訪

有楽町・日比谷界隈

マックイーンの「華麗なる賭け」を観た覚えがある。そのビルの地下にはもつと前に閉館した「シネマ2」もあった。黒澤明監督の「生きる」の志村喬がブランコに座るポスターが印象的だった。

「ニュー東宝シネマ1」

があつた場所を右に曲がり、JRのガード下を通り過ぎ、日比谷映画街に左折する。

映画街の入口角には「日比谷映画劇場」。昭和九年建築、ドーム型の屋根をもつモダンな建物で、東宝の最初の映画館であった。「劇場ニュース」（モノクロ）を最後までやつていた映画館だったと思う。

その道をちょっと行くと、左側に「有楽座」と「千代田劇場」。その向いに「日比谷スカラ座」と「東京宝塚劇場」が並んでいた（東宝は東京宝塚劇場の略）。今は建て替えられ、宝塚劇場下にスカラ座1・2が入つているが、かつての日比谷スカラ座の優雅な面影はない。「有楽座」も「日比谷映画劇場」と並ぶ古い映画館だったが、ともに一九八三年に閉館取り壊しになつた。千代田劇場は「日比谷映画」と改名して、いま谷映画と改名して、いまに至つている。そしてみゆき通りを左に曲がると「みゆき座」と「芸術座」がある。じつは「日比谷映画」と「みゆき座」も東宝本社ビル建て替えて、三月をもつて閉館が決まつた。芸術座は、森光子さんの「放浪記」のおかげか新しいビルに残ることことができたが、両映画館

映画館は下町がよく似合う

なぜ東宝は映画館文化を残そうとしないのだろう。

映画はソフトだけが文化ではないと思う。今、「日比谷映画劇場」が残つていたらと思うと、とても残念でならない。

映画館に入り、好きな中央右寄りに腰を下ろす。上映開始を告げるアナウンスが流れ、ブザーが鳴り、どん帳が上がる。CMと長々と続く予告編。最近は携帯電話のスイッチを切るようになるとお願いも入る。多少いらいらしはじめたころに上映開始。お尻の状態如何で態勢を変えつつ鑑賞し、最後にはエンドクレジットを見ながら感動や余韻に浸る。暗いうちに座席を立つのはいやだ。場内が明るくなり、来場御礼のアナウンスを背に劇場を出るときの満足感。

映画と映画館は切り離せない。その作品の想い出は、そのままそれを観た映画館の想い出となり、その町の想い出となる。確かに綺麗でお尻も痛くならないのがシネコンだが、ファーストフードのような味気なさに親しみは湧かない。

映画館は、下町やダウンタウンがよく似合うのだ。

はあつさりと閉館が決まつてしまつた。「みゆき族」という流行語にもなつた通りにある「みゆき座」は、女性向映画を中心に上映を続けてきたが、とうとう閉館に。

有楽町駅中央口を出ると、交差点左角、立食いの焼そば屋は看板を降ろしていた。旧モヤシが沢山入ったソース焼きそばで、三十年前は百

まだ「有楽町マリオン」が旧日劇だったころは、この丸い建物と旧朝日新聞ビルの間を通り、数寄屋橋に抜けることができた。旧朝日新聞社ビルも日劇同様立派な建物で、一階には輪

転機が回り、外壁のガラスケースには刷りたての新聞が掲示されていた。道行く人が立ち止まり、新聞を覗きこんでいた姿を思い出す。

その隣のビルに松竹系の丸の内ピカデリー1・2があつた。階段を登つて二階の劇場に上がりつて行くあいだに、気持ちが映画モードに変つていく。長蛇の列に身を投じ「エクソシスト」を観た。

日劇の地下にも映画館が二館、「丸の内東宝」と「日本劇文化」があつた。どちらも思い出深い映画館だが、とくにATG映画、「青春の殺人者」が心に残る（ATG映画とは、製作費が一千円といふ低予算ながら、芸術本位の映画を製作・公開。ほかに類を見ない先駆的な作品を世に送り出し、「一千万円映画」とも呼ばれた）。

日劇文化は、このATG映画館で、閉館後は有楽シネマがそれを引き継いでいた。その有楽町マリオンの向い側、ニュートーキョービル三階の「ニュートーキョービル」が今年一月に閉館した。マスコミの話題にも上がらない小さな映画館であったが、「ウエストサイド物語」のリバイバルやステイプル・

saki
太崎会計事務所
〒144-0035 東京都大田区南蒲田2-4-15 東邦本社ビル5F
TEL.03-5480-4561 FAX.03-5480-4561
HP <http://www.osakikaikei.co.jp/>

代表 太崎 正博
業務内容 会社設立 月次監査 会社決算申告個人申告
事業計画 企業・組織再編

羽田名物 横山せん巻
本店 羽田 4-22-10
羽田空港通り
売店 穴守神社前
電話 羽田 3741 1074

KEIHIN TENT
株式会社 京浜テント
〒144-0052 大田区蒲田1-8-14
TEL 3733-3561 FAX 3738-7110
URL <http://www.keihintent.co.jp>
Email: info@keihintent.co.jp

リフォーム&看板 事業部 快適空間

創業昭和3年鳥専門の弁当屋

蒲田 **久**

東口店 大田区蒲田 5-16-1
☎ 03-3738-5736
営業時間 7時～20時(売り切れ閉店)

鳥久本店 大田区蒲田 1-8-12

☎ 03-3731-5888 (配達受付)
営業時間 6時30分～18時
(売り切れ閉店)

サンカマタ地階店 JR駅ビル地下
☎ 03-3738-0880
営業時間 10時～20時30分

